

(別紙 2)

審査の結果の要旨

氏名 平野 賢二

近年、血清 IgG4 値が自己免疫膵炎(AIP: autoimmune pancreatitis)の診断に極めて有用であることが明らかにされつつあるが、IgG4 が臨床の場に導入されたのは、ごく最近のことであり、胆膵疾患全体における IgG4 の意義は、まだ十分には検討されていない。そこで、本研究では、種々の胆膵疾患において、血清 IgG4 値を測定して、胆膵疾患における IgG4 の意義を明らかにし、次に IgG4 高値を示す膵疾患の臨床病態を明らかにすることを試みた。さらに本研究では、AIP および AIP 疑い例の膵外病変の詳細な検討を行い、その臨床病態を明らかにするとともに、ステロイド治療の適応や投与方法についても一定の見解を提示することも試みた。本研究により下記の結果が得られた。

- 1)膵疾患において血清 IgG4 高値を示せば AIP あるいは AIP 疑いのいずれかである可能性が高い、ということが示された。
- 2)AIP 疑い群も AIP 群と近似した疾患であるが、AIP 疑い群は AIP の病期のより早い段階、軽症の段階を捉えていることが示された。したがって、膵疾患においては、血清 IgG4 高値は AIP あるいはその前段階の状態であることを意味するものと解釈可能である。
- 3)AIP、AIP 疑い例の膵外病変は一旦発症してしまえばその臨床病態に大差は認めない。したがって臨床症状を伴う膵外病変があれば AIP 疑い例であってもステロイド治療を行うべきである。ステロイドの初期投与量はプレドニゾン 30mg で十分であり、維持量として 5mg は必要である。

以上、本論文は胆膵疾患における IgG4 の意義、IgG4 高値膵疾患の意義、AIP および AIP 疑い例の膵外疾患を含めた病態、治療法について明らかにした。本研究が自己免疫性膵炎の臨床に貢献するところは非常に大きく、学位の授与に値するものと考えられる。